

入札等監視委員会の議事概要の公表について

北九州市入札等監視委員会の令和7年度第2回定例会議を次のとおり開催したので、別添のとおりその議事概要を公表する。

記

開催日時 令和7年8月21日（木） 9：30～11：00

開催場所 本庁15階 15C会議室

令和7年度第2回 北九州市入札等監視委員会 議事概要

1 会議名

令和7年度第2回北九州市入札等監視委員会

2 開催日時

開催日時 令和7年8月21日（木）9：30～11：00

開催場所 本庁15階 15C会議室

3 出席委員（五十音順）

城戸 将江、古林 節子、樋上 弥寿子

4 議事

（1）令和7年度第1四半期の工事契約状況等の報告

ア 次の事項について報告した。

- ・工事契約件数及び契約金額について
- ・建設工事等有資格業者に係る指名停止及び資格取消について

（2）令和7年度第1四半期の工事契約抽出案件の審議

ア 抽出方法について

審議する案件は、令和7年度第1四半期に契約をした工事の中から、城戸委員が10件（契約課契約分8件、西部整備事務所分2件）を抽出した。

イ 審議における質疑等

（問） 総合評価、一般競争入札による土木工事で、総合評価落札方式を採用した理由など、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

（答） 県道長行田町線の小倉南区高野一丁目付近における道路拡幅に伴う道路改築工事である。

予定価格が1億円未満の工事でも、工事箇所の周辺環境や工事自体の難易度を考慮して、総合評価落札方式の活用が必要と考慮される場合がある。

今回の工事は、一般的な道路改築工事であるが、工事箇所周辺は車の通行が多い場所であり、沿道利用者への安全配慮が必要であることや配置予定技術者など企業の技術力を評価することで、工事の品質確保を図ることが期待できることから、簡易型の総合評価落札方式を採用した。

土木Aランクの業者を対象に公告したところ、13者から入札参加申請があったが、5者が入札辞退や取消となったため、8者による競争入札となった。落札業者の入札金額は5位であったが、入札価格の差は大きくなく、落札者は価格以外の評価がほぼ全ての項目で最高点であり、これらを総合した評価値で1位となったため落札した。

(問) 一般競争入札による土木工事で、入札参加業者数が多い案件であるため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 国道3号線の穴生付近における工事延長215メートルに亘る自転車走行空間いわゆる自転車通行帯等を整備する工事である。

土木Aランクの業者を対象に公告したところ、39者から入札参加申請があったが、12者が入札を辞退したため、27者による競争入札となった。入札の結果、1者が最低制限価格を下回ったため失格となり、次順位の業者が落札業者となった。

今回の工事は、通常の道路工事で施工難易度が高いものではなく、5月に開札した案件で、手持工事が比較的少ない時期であったことから、多くの業者が入札に参加したのではないかと推察している。

(問) 総合評価、一般競争入札による建築工事で、技術点が1位で、落札金額が5位のため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 教育委員会では、築後30年を経過した学校施設を対象として、機能更新を行う学校大規模改修事業を行っており、本件は、八幡西区に所在する小学校の屋上防水や外壁改修などを行う工事である。

内装工事は夏休み期間中に実施する必要があることや、外壁工事についても授業に支障がないように実施する必要があるなど施工上の特別な対応が求められるため、技術提案を評価する総合評価落札方式を採用した。

参加申請は12者で、3者が辞退したため、9者による競争入札となった。落札業者の入札金額は5位、価格以外の評価点は1位であり、これらを総合した評価値で1位となったため、落札と決定した。

(問) 総合評価、一般競争入札による港湾工事で、結果的に2社による入札となっているため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 小倉北区の藍島漁港において、昭和初期に造られた係留施設が老朽化しているため、漁港施設の耐震及び津波対策機能を強化すると共に、現在の安全基準に適合した施設に更新する工事である。

既設の施設を粉砕した後、くい打ちを行うといった工事内容であり、海洋環境対策の観点から特別の配慮が求められたため、技術提案を評価する総合評価落札方式を採用した。

参加申請は4者からあったものの、1者は直ぐに辞退し、もう1者は技術提案の段階で辞退したことから、2者による競争入札となった。落札業者は、入札金額及び価格以外の評価点のいずれも1位であり、落札と決定した。

離島における海洋工事は、資機材の運搬が困難であることや工事自体が天候に左右されやすいといった特性があるため、入札への参加を敬遠される傾向にある。

(問) 指名競争入札による土木工事で、指名業者数が多く、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 北九州モノレールの長寿命化計画により、モノレールの軌道における走行安全性の向上を図るための工事である。工事内容は、経年劣化した桁の継ぎ目部分の上反りした部分を補修するものである。

モノレールの運行停止中に施工する必要があることやミリ単位での高い施工管理が必要であることから、ＰＣ（プレストレストコンクリート）の工事に精通した高度な技術力を有する市外業者２２者と市内業者３者の合計２５者を指名することとした。指名業者のうち、１者が不参加、２１者が辞退したため、３者による競争入札となった。

前年に入札を実施した同様のＰＣ工事でも比較的落札率が低く、大手の市外業者による競争入札は、比較的落札率が低い傾向にある。

(問) 指名競争入札による電気工事で、指名業者数が少なく、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 区役所の蓄電池設備を更新する工事であり、工場で製作した蓄電池を交換するという工事内容である。

発注先を更新する機器のメーカー代理店とすることで、責任の所在を含めた信頼性が担保されるとともに、工期短縮やコスト縮減が図れることから、当該要件を満たす６者を指名したところ、入札辞退等は無く、６者による競争入札となった。

工事費用のうち直接工事費に係る機器費の割合が高いため、最低制限価格を設けず入札を行った結果、落札業者の入札価格と予定価格に差があり、落札率が低くなったものである。

(問) 指名競争入札による管工事で、指名競争入札を採用した理由など、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 航空自衛隊基地から近い場所にある小学校において、防音工事を行うものである。

防衛省の補助を受けて行う工事であり、補助金の決定が５月上旬頃になる一方で、学校における工事は夏休み期間中を利用して行う必要があることから、一般競争入札の手続きを行う期間の余裕が無かったため、指名競争入札を採用することで、入札までの期間を短縮して、適切な工期が確保出来るよう配慮した。

指名競争入札を採用したが、一般競争入札で実施する場合の入札参加資格要件を満たす３１者を全て指名したところ、５者からは反応が無く、１９者が辞退したため、７者による競争入札となった。その結果、２者が最低制限価格を下回って失格となり、次順位の業者が落札業者となった。

(問) 特命随意契約による機械器具設置工事で、1 者の特命随意契約となった詳しい状況について知りたく抽出した。

(答) 市民会館の大ホール舞台設備の更新を行う工事である。

今回の工事範囲は、既設の設備等と密接不可分の関係にあり、施工者が異なった場合、既設の設備等の使用に著しい支障が生じることとなる。また、一部を他社メーカーの部品とした場合には、舞台設備全体の責任区分が不明確となり、故障発生時の原因究明や修理等の対応が困難となることから、既設の舞台設備メーカーに特命で発注したものである。

(問) 指名競争入札によるとび土工コンクリート工事で、指名業者数が多く、落札率が低いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 八幡西区の赤坂小学校と東折尾小学校を結ぶ通学路において、歩道整備や自転車通行帯を整備する工事であり、矢羽根型の路面標示や自転車ピクトグラムなどを設置するという内容である。

とび土工コンクリート工事の交通安全に関しては、業者数が少ないことから、西部整備事務所管内の24 者を全て指名したところ、技術者が配置出来ないとの理由で1 者が辞退したため、23 者による競争入札となった。

入札の結果、15 者が最低制限価格を下回って失格となり、次順位の業者が落札業者となった。

(問) 指名競争入札による舗装工事で、落札率が高いため、詳しい入札状況を知りたく抽出した。

(答) 八幡東区の小熊野1 号線において、傷んだ舗装部分を削って、舗装を新しくやり直すという工事内容である。

西部整備事務所管内における舗装A ランクとB ランクの19 者全てを指名したところ、入札辞退などは無く、19 者による競争入札となった。

入札の結果、17 者が最低制限価格を下回って失格となり、次順位の業者が落札業者となったが、失格となった業者が多くなった要因は、ランダム係数が比較的高かったためと捉えている。